

第1学年 国語科 学習構想案

日時 令和3年11月11日(木) 第5校時
 場所 1年5組教室
 指導者 教諭 板崎 成美

1 単元構想

単元名	いにしへの心にふれる 蓬萊の玉の枝 — 「竹取物語」から (光村図書 P158～169)		
単元の目標	(1)音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。〔知識及び技能〕(3)ア (2)場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)イ (3)言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものに行っている。(C(1)オ)	①進んで場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉え、学習の見通しをもって、作品の世界観をポップで表そうとしている。
単元終了時の生徒の姿			
物語を読むときに、言葉に着目して場面の様子や心情の変化を読み、自分がどのように文章を捉えたのかを明確にした上で、作品の魅力や世界観を伝えようとする生徒の姿。			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
古典「竹取物語」の魅力が伝わるポップを作り、紹介しよう。		古典特有のリズムに親しみながら、登場人物の行動やその理由、情景を描写する言葉に着目し、心情の変化を考えることを通して言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画 (6時間取扱い 本時5/6)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時までの学習を想起し、文語の決まりや訓読の仕方を確認するとともに、「竹取物語」という作品について知る。 ○ 冒頭部分を音読し、古典特有のリズムに親しむ。 ○ 作品の大まかなあらすじを確認し、古典作品「竹取物語」のポップを作成するという学習活動の見通しをもつ。 	【態】①(観察) 【知】①(ワークシート・教科書)
二	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「蓬萊の玉の枝」の内容や場面の工夫、おもしろさなどについてまとめる。 ○ 昇天の場面での登場人物たちの心情を考える。 ○ <u>不死の薬の場面における帝の行動の理由や思いについて考える。(本時)</u> 	★【知】①(発言・ワークシート) ○ 音読に必要な文のきまり、古典特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。 ★【思】①(観察・ワークシート) ○ 登場人物がどのような難題に挑み、どのような結果を迎えたか捉えている。 ★【思】②(発言・ワークシート) ○ 登場人物の行動や描写などから、理解したことにもとづいて、自分の考えをまとめている。 【態】①(発言・ワークシート)
三	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまで学習した場面を振り返り、内容や登場人物の心情などをもとに、自分が感じた作品の魅力を伝えるポップを作成する。 	【思】①(ワークシート・ポップ) ★【態】①(観察・ポップ) ○ 自分が感じた描写や心情、内容等に関する作品の魅力について、ポップにまとめようとしている。

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)	
中学校学習指導要領第1学年 【知識及び技能】(3) 我が国の言語文化に関する事項 ア 【思考力、判断力、表現力等】「C 読むこと」イ、オ	
教材・題材の価値	
「竹取物語」は「物語の出で来はじめの祖」とも言われ、生徒たちが中学校で初めて本格的に学習する古典教材である。また、昔話「かぐや姫」などで広く知られている作品でもあり、親しみをもつことができる。音読を通して、訓読の仕方や古典特有のリズムにふれ、千年以上昔から読まれ続けている作品の面白さを感じさせたい。さらに、美しいものへのあこがれや、人間のずるさ、大切な人との別れの悲しさなど、現代と共通する人間の姿を感じることができ作品でもある。古典と現代との相違点を感じつつも、人間の心や姿などの共通点も捉えることで、古典に親しみをもたせるだけでなく、自分自身のものの見方や考え方を広げることができるものである。	
本単元における系統	
生徒の実態(単元の目標につながる学びの実態)	
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(標準学力検査の結果より)	
調査内容	正答率%
標準学力検査1年生国語全体の正答率	72.0(全国比△0.6)
「読むこと」の正答率	59.4(▽4.8)
文学作品の内容を読み取る問題に関する正答率	55.5(▽6.9)
(問) 様々な表現が読み手に与える効果について考えている	62.4(▽11.0)
(問) 文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている	42.3(▽6.9)
■本単元の学習に関する意識の状況	
国語は得意ですか。	得意：7 どちらかといえば得意：39 どちらかといえば苦手47 苦手：7(%)
国語の授業は好きですか。	好き：39 どちらかといえば好き：47 どちらかといえば嫌い：11 嫌い：3(%)
■考察 標準学力検査の結果から、全体的な結果としては全国の正答率をわずかに上回っている。しかし、他の領域に比べ、「読むこと」に課題が見られた。登場人物の心情や状況、行動の理由などを作品の描写や表現から読み取ることに苦手意識があると思われる。 古典に対しては、小学生時の狂言「柿山伏」で古典の音読や鳥獣戯画、竹取物語などの授業の印象が残っている生徒が多い。昔の物語や言葉遣い、世界観について面白いと興味をもつ生徒もいれば、言葉が難しいため内容がわかりづらいと敬遠する生徒もいる。 国語の授業に対しては、問題の捉え方や答え方などあいまいなどが多いことから、国語自体に苦手意識をもつ生徒もいる。しかし、全体的に国語の授業への意欲は高い。4月からグループ学習での話し合いや考えの共有をたびたび行っており、他者の意見にふれることが好きな生徒も多い。問いや視点を明確にすることで、単元のゴールをイメージしながら文章を読む意識を高め、「読むこと」への苦手意識を減らす必要がある。	

3 指導に当たっての留意点(「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記)

- 『古典「竹取物語」の魅力が伝わるポップを作り、紹介しよう』という「単元を通じた学習課題」を明確に示し、主体的に学習に取り組めるようにする。
- 描写などを基に、登場人物たちの心情をより深く捉えられるように、ひとよし型授業やつながりタイムの充実を図り、意見の共有や練り上げなどにつながるようにする。
- 自身の考えがもてなかったり、描写から心情を想像することが難しかったりする生徒には、きっかけとなる描写を示したり、個別に支援を行ったりすることによって、「誰一人取り残さない学びの保障」につなげていく。
- 話し合い活動の際には、役割を決め、それぞれがその役割を果たす形で進めていく。話し合いをする中で互いを尊重し合い、それぞれの考えや意見を共感的に受け止める支持的風土づくりに努める。
- 描写や表現、使われている言葉や行動に着目することで、それらを根拠として登場人物の心情を想像できるようにする。

4 本時の学習

- (1) 目標 登場人物の言動や描写、関係性等に着目し、帝の行動の理由やその思いをまとめることができる。
- (2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意点 (学習活動の目的・意図、内容、方法など)
導入	5	<p>1 課題をつかむ</p> <p>①前時の学習を振り返る。</p> <p>◇かぐや姫の昇天の場面だったな。</p> <p>【めあて】帝の行動から、かぐや姫への思いについて考えよう。</p> <p>②問いをもつ。</p> <p>◇どうして、せっかくもらったものを大事に持っておかなかったのだろう。</p> <p>【学習課題】 なぜ帝は贈り物を燃やしたのだろう。</p>	<p>○単元のゴールを確かめ、単元計画からめあてを設定する。</p> <p>(「問い」を生み出す手立て)</p> <p>○「贈り物」に注目し、「竹取物語」がむかえる結末について確認する。</p> <p>○贈り物を燃やす必要があったのか問うことで、帝の行動の理由やその思いに着目できるようにする。</p>
展開	35	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①原文を音読する。</p> <p>②原文に対応する現代語訳を読み、内容をワークシートで確認する。</p> <p>③なぜ帝は贈り物を燃やしたのか個人で考える。④</p> <p>◇不死の薬は必要ない。</p> <p>◇富士の山に登ったのは天に近いから。</p> <p>◇煙が登っていつている。届かせたい。</p> <p>④グループで考え、まとめる。⑤</p> <p>⑤発表を聞き、考えをまとめる。⑥</p> <p>【期待される生徒の学び】 行動と思いの矛盾、作品にもたらす効果など様々な視点から作品を読み合い、かぐや姫への思いについて考えている。</p>	<p>○歴史的仮名遣いに注意して音読することで、古典のリズムを意識できるようにする。</p> <p>(課題解決に向けた見通しを持つ手立て)</p> <p>○「不死の薬」と「手紙」を燃やすことに矛盾を抱くことで、なぜ帝は燃やしたのか考えていく見通しをもてるようにする。</p> <p>(見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け)</p> <p>○帝の行動や発言に着目し、現代語訳と照らし合わせて考えることで、帝の目的や心情などを理解できるようにする。</p> <p>(個に応じた支援・誰一人取り残さない学びの保障のために)</p> <p>○登場人物の行動が理解できるように、スライドを用意する。</p> <p>(言語活動の設定及び設定の意図「つながりタイム」の活用)</p> <p>○個人で考えたことをもとにグループで話し合うことで、より作品や登場人物の心情への理解や解釈を深められるようにする。</p> <p>【具体的評価規準】思② 帝の言動や描写等に着目して、かぐや姫への思いについて考えをまとめている。(方法：ワークシート、発言)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】</p> <p>○各グループの発表を基に、「帝」「思い」等のキーワードを使うように提示してまとめるようにする。</p>
終末	10	<p>3 学習課題に対する答えをまとめ、めあてに対する振り返りをする。 ⑦</p> <p>【まとめ】帝は贈り物を燃やすことで、かぐや姫がいない世界の不死の無意味さや悲しさ、かぐや姫への愛情を天にいるかぐや姫に伝えたかった。</p> <p>◇友達との交流で、帝のかぐや姫への思いについて感じ方が違うことに気付いた。</p> <p>◇ポップでは、どの場面を紹介しようかな。</p>	<p>○めあてや学習課題を振り返りながら、本時の学習をまとめる。</p> <p>○本時の学習について振り返りを行うことで、次時の「竹取物語」のポップ作りや家庭学習への意欲喚起を図る。</p>

【板書計画】

まとめ		◎なぜ帝は贈り物を燃やしたのだろう。	蓬萊の玉の枝―「竹取物語」より 帝の行動から、かぐや姫への思いについて考えよう
-----	--	--------------------	--

【ICT活用計画】

教師における教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等にとり入れる考え方の共有の計画等
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「竹取物語」の作品説明や古典音読等の動画を視聴し、イメージしやすいようにする。 ○ 前時の学習の振り返りにスライドを使用する。 ○ 音読練習は、本文をスライドで提示して行う。 ○ 「蓬萊の玉の枝」の話をイメージしやすいように、画像等を用意し、視覚的に補足する。 ○ 発表の際には、記入したホワイトボードを電子黒板に映して発表を行う。 ○ ポップ作りでは、ポップの例や作り方のポイント等を電子黒板で提示し、それぞれがタブレット端末を使って調べられるようにする。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> ① 古典に関する知識 <ul style="list-style-type: none"> 【熊本県学力・学習状況調査】令和2年度 大問3 ② 本単元に働かせた見方・考え方を生かして、後に学習する古典において朗読を工夫して古典に親しむ。 ③ 期末テストにおいて、「竹取物語」の登場人物の行動や心情について問う問題に取り組む。その際は、文章中の描写や表現を基に考える問題を作成する。